

# F 川和宿の昔を偲び今を歩くコース



**1 天宗寺**  
 天文9年(1540)村民・岩澤伊佐衛門の開山といわれている。観音菩薩は、広島県尾道村法輪寺の本尊であったが、信者安丸が背負って勧誘のため諸国を巡っているとき、賊に襲われ菩薩に助けられた。身代わり観音として親しまれている。



**2 無患子**  
 天宗寺から南へ川和町駅方向に歩くと、右側に一本の古木が、道角にひときわ目立っている。無患子の古木である。黒色の種は、正月の羽子板の羽根や数珠に使われる。



**3 瑞雲寺**  
 簡素で落ち着いた禅寺で、「鷹薬師如来」と「筆塚」が知られている。徳川家康が鷹狩のとき、寵愛していた鷹が戻らないので、この薬師如来に祈願したところ、たちまち手元に戻った靈感に帰依して、鷹薬師如来として祀る。



**4 道祖神塔**  
 宿の上の入り口に道祖神(安政5年1858)と庚申塔が、下の入り口脇には双体立像の道祖神(寛政元年1789)が建っている。これらの道祖神は、集落内を悪神から守るために建てられたもので、市にきた市商人を守るためでもある。



**5 川和の宿**  
 谷本川(鶴見川)沿いに川和宿が営まれていた。現在も「わたや」「かじや」「こうや」「なべや」「さかなや」等の屋号でよばれている家がある。



**6 城所家**  
 川和宿の中央付近の東側に、赤い屋根瓦をのせた大きな旧家が残っている。母家は明治16年(1883)から4年の歳月をかけて建てられた。書院と正玄閣(式台があり籠等がつけられる)がある格式のある造りになっている。【非公開】



**7 八坂神社 天王様**  
 川和宿の通りの中央に鎮守である天王様がある。幕末の時代、官軍の江戸攻めによる戦乱から難を逃れるため、知人を通して大神輿を引き取り、御神体として祀っている。境内には二十三夜塔と、力比べをした「天王様の石」といわれる24貫(90kg)の力石がある。



**8 川和八幡神社**  
 貞観17年(875)武蔵野国河輪神社は従五位を授けられたといわれている。現在は川和八幡神社となり川和町の氏神として祀られている。長い参道や境内の桜は見事。昭和37年(1962)に枯れて切り倒されるまで、関東一といわれた杉の大木があった。



**9 菜の花と桜**  
 地下鉄の川和町駅の東側の畑は、3月から4月にかけて一面に黄色の菜の花が咲き、桜とのコントラストは一見の価値がある。川和町の魅力的なポイントになっている。(下記コラム参照)



**10 信田家**  
 江戸時代に名主を務めた信田太郎右五門は、天保15年(1844)の元旦から大晦日まで、名主の仕事、農作業、交友などや、その日の天候を日記に書き残した。この日記により当時の農民の生活を知ることが出来る。【非公開】

**ポトマック河畔の里帰り桜(愛称 シドモア桜)**

明治45年(1912)、東京からワシントンへ友好・親善のため桜の苗木(ソメイヨシノ)が3000本送られた。その桜はポトマック河畔一帯に植えられ、世界的な桜の名所となった。桜の植樹にあたり、大きく貢献したのがアメリカ人のエリザ・R・シドモアである。シドモアは紀行作家で、度々日本を訪れた親日家であり、日本に関する記事や著作を残している。そのシドモアは現在、横浜の山手外人墓地に眠っており、その墓碑の傍らに、昭和62年(1987)にポトマック河畔から里帰りした桜が植えられた。川和町駅近くの桜は、横浜に眠るシドモアのエピソードを伝えるため、ボランティアが接木により苗を作り、菜の花畑で育てたものである。